

米、供給制約で品切れも

ブラックフライデー 割引率低く

年末商戦のヤマ場となる一斉セール「ブラックフライデー」を26日に迎えた米国内で、供給制約の影響がじわりと広がっている。西海岸でのコンテナ船滞留や人材不足で物流が滞ったことで店頭での品切れが目立ち、機会損失が発生している。南アフリカで見つかった新型コロナウイルスの変異型「オミクロン型」も懸念材料だ。米経済のけん引役である個人消費の回復が鈍れば、世界経済にも重荷となる。

「ブラザー」では、高級ブランドのルイ・ウィトンのスニーカーの特選商品を販売する「キックループ」など多くの店に行けなかった。コロナ禍で浸透したインターネット通販による消費も好調だ。「10月中旬以降にネット通販の値

26日、ニュージャージー州のショッピングモール「ガーデン・ステート



「スター・ウォーズ」シリーズのブロック玩具「レゴ」など人気のおもちゃは早々に売り切れ（26日、ニュージャージー州のターゲット）

年末商戦の売上高は前年比1割増の見通し



下げが目立ってきたので化粧品や服を買った」。ニューヨークに住むイベット・ニューマンさんはホリデーシーズンの買い物前倒しで始めた。外出の機会が増えたため化粧品の減りが早く、値下げを狙ってまとめ買いしたという。

米小売り大手ウォルマートなどは年末にかけて品不足となるのを避けるためセールを前倒しして早期の買い物を呼びかけてきた。消費者の購入意欲が旺盛になる一方、長引くサフライデー（供給網の混乱で店頭に異変も起きている）

26日、デイスカウントストア大手ターゲットのニュージャージー州の店舗ではブロック玩具「レゴ」の品切れが目立った。家電売り場でも人工知能（AI）スピーカーの一部が在庫切れだ。特売価格で購入するつもりだった客の一人は残念そうに店を後にした。供給制約が販売機会の損失につながる例が相次ぐ。

在庫不足や物価高を背景に、今年のブラックフライデーでは商品の割引率が例年より見劣りするとの声も上がる。ウォルマートのニュージャージー州の店舗を訪れた男性客は「オンラインで売られていたアクセサリを買ったことができたが、あまり安くなっていないのがっかり」と漏らす。米アドビの予測によると、過去の平均的な割引率が10〜30%だったのに対し、今年は5〜25%にとどまる。家具のネット通販を手がけるウェイフェアでは、昨年と今年のブラックフライデーで広告が出た15の製品分野のうち、6割で値引きが減り、33%が横ばいだった。コアサイト・リサーチのデボラ・ワインズウィック最高経営責任者（CEO）は「消費者は例年よりお買い得感を得られない」と指摘する。